

島根

隠岐魅力UP

目指せ！世界ジオパーク

お盆は過ぎましたが、隠岐島前の盆行事といえは、西ノ島のシャーラ船(精霊船)が有名ですね。民俗文化財もひっくるめてとらえるのがジオパークの考え方ですから、伝統的な盆行事もジオパークの資源。というわけで今回は、送り盆のシャーラ船を紹介します。

西ノ島でも集落によって船の大きさや流し方は異なりますが、特に浦郷のシャーラ船は10層を越える大型。約150年前から各家庭のものを地区でまとめて流す習慣ができたようです。

長年シャーラ船作りに携わり、継承活動も行う竹中余志(なせ)さんによると、「設計図は無く、すべて頭の中」。角材や竹で骨組みを作り、船体はわら。すべて自然に返る素材です。以前は麦わらでしたが麦が作られなくなったので、現在の材料は稲わら。稲作が盛んな海士町から取り寄せています。稲わらで船体を作る作業は地元の男子中学生が担当し、彼らは当日は実際に船に乗り込むという重要な役割も務めます。

塔婆を積んだシャーラ船が漁船に引かれて海に出る

浄土へ通うシャーラ船



知々井のシャーラ船—16日、岡本さん撮影

すつきり ワイドに きよらっくページ

のは、8月16日の早朝。高ります。い竹のマストに盆旗を無数につけたロープを何本も張り、それが帆の代わりにな

土へ向かう船という感じでは、8月16日の早朝。高ります。い竹のマストに盆旗を無数につけたロープを何本も張り、それが帆の代わりにな

た。浮力はドラム缶や発泡スチロールで、4000kg程度の石を重しにします。だるまの原理で、台風でもひっくり返らないですよ！」

船が出るのは16日の夕方。帰省客も加わって、通常の地区人口の倍ほどの人数が港に集まります。見送りでは、ヤカンなどで真水を海に注ぐのが慣わし。「お墓と一緒に。きれいな水をお供えして、どうぞお帰りにください」という気持ちです(知々井の磯野区長)

行事を担う男子中学生の数は減っていますが、「先祖を思う気持ちを育むためにも大切に守っていきたくて」行事だと竹中さんは話しています。

隣の海士町でも、家庭でシャーラ船を流す集落があります。地区でまとめて流すのは知々井のみです。約2層の木造船で、昔は船大工が作りましたが、ここ20年は区民が十数人集まって作っています。

各家庭の供養の品を積み込んで、御詠歌をバックに

漁をして恵みを頂いたり、海を越えて交流・交易するだけでなく、海は、極楽浄土への通い道でもあるんですね。お盆はご先祖に思いをはせ、家族や地域の絆を再確認する大切な時期ですが、同時に、私たち島民と海との深いつながりを感じました。

(海士町役場総務課情報政策係 岡本真里菜)